



サメガレイ (太平洋北部) ①

サメガレイは北海道および東北地方の太平洋岸沖に広く生息している。本評価群はこのうち青森県から千葉県沖に分布する群である

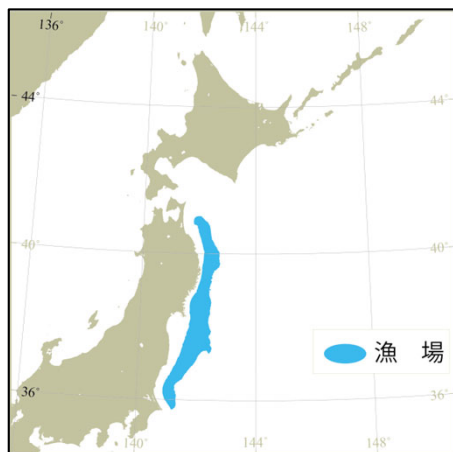


図1 分布図

水深150~1,000mの砂泥底に分布する。本資源は主に沖合底びき網漁業（沖底）によって青森県から茨城県沖で漁獲され、千葉県沖でも漁獲されることがある。

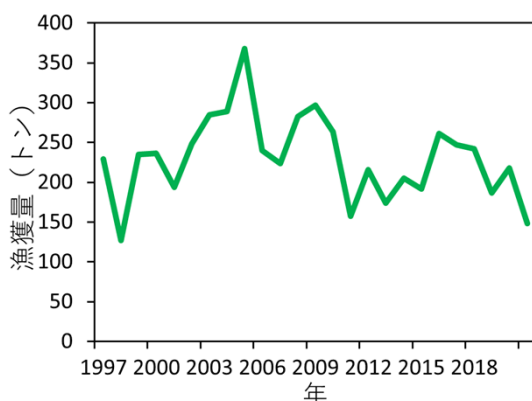


図2 漁獲量の推移

全漁業種の漁獲量情報が得られている1997年以降の漁獲量は、2005年の368トン进行ピークに2011年には157トンに減少した。その後、2017年に247トンに回復したが、その後はまた減少傾向に転じ、2021年は148トンであった。

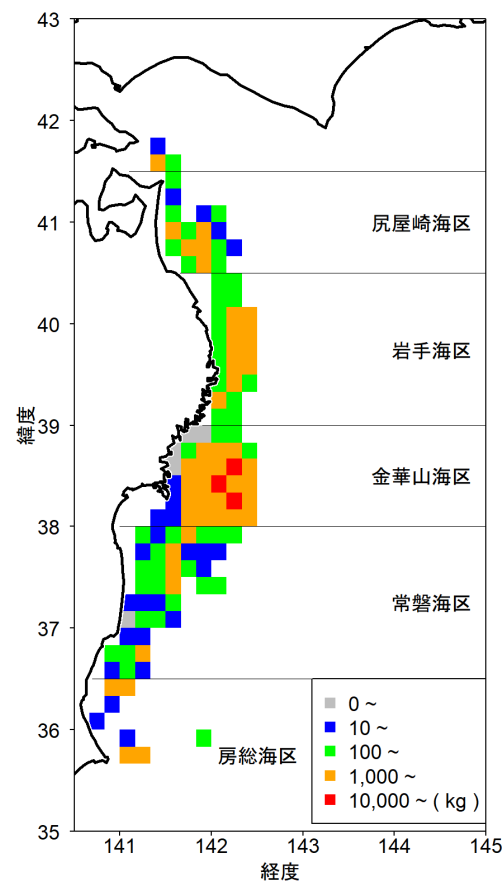


図3 沖底の漁獲量分布

2020年の沖底の緯度経度10分昇目の漁獲量を示す。本種は深海性が強く、特に水深500m以深の海域で漁獲量が多い。2010年以前は金華山～房総海区に漁場が広がっていたが、2011年以降は常磐～房総海区の深い海域での操業が減少し、近年は2020年のような金華山海区中心の漁獲状況が続いている。

本資料における、管理基準値、禁漁水準および漁獲管理規則については、資源管理方針に関する検討会（ステークホルダー会合）における検討材料として、研究機関会議において暫定的に提案されたものである。これらについては、ステークホルダー会合を経て最終化される。

サメガレイ (太平洋北部) ②

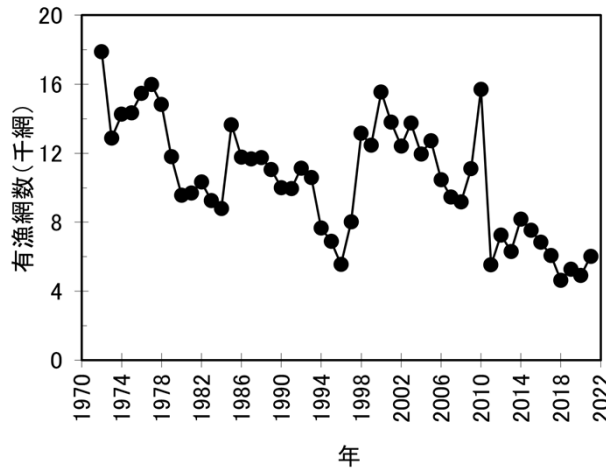


図4 有漁網数の変化

主漁場である金華山海区以南の沖底の有漁網数は長期的に減少傾向にある。近年では本資源の主分布域である500m以深での操業が減少しており、このことが一因となって有漁網数が減少していると考えられる。

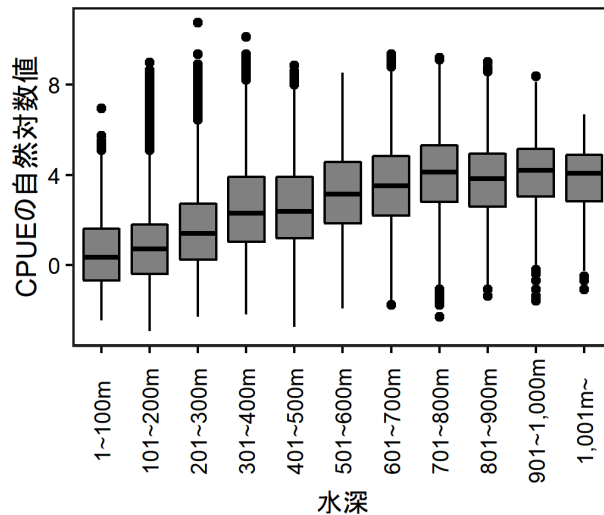


図5 水深帯別CPUE

主分布域の深い海域での操業では、沖底CPUE（漁獲量(kg)/網）が高い値をとりやすい（左図の灰色四角形中の黒線は中央値）。そのため、深い海域での操業が過去より少ない近年では、平均的なCPUE（ノミナルCPUE）は低い値になりやすい状況になっている。

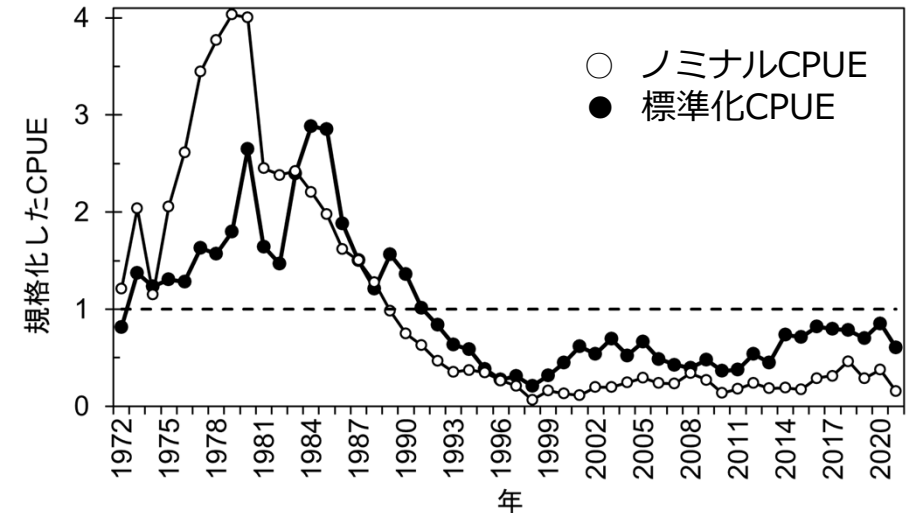


図6 資源量指標値の推移

ノミナルCPUEは水深の他、操業月や海域の影響も含む。これらの影響を除去（標準化）した金華山海区以南のCPUEを算出したところ、1970～1980年代は低く、近年のCPUEは高く補正された。このように資源変動以外の影響を除去した標準化CPUEを資源量指標値として採用した。

標準化CPUEは1980年代以前は平均値以上で推移していたが、1992年以降は平均値以下となった。2011年以降は回復がみられたものの、2021年は前年より減少して0.60であった。

サメガレイ (太平洋北部) ③

本系群で使用可能なデータは漁獲量と資源量指標値である。したがって「令和4（2022）年度 漁獲管理規則およびABC算定の基本指針」の2系規則を適用する。

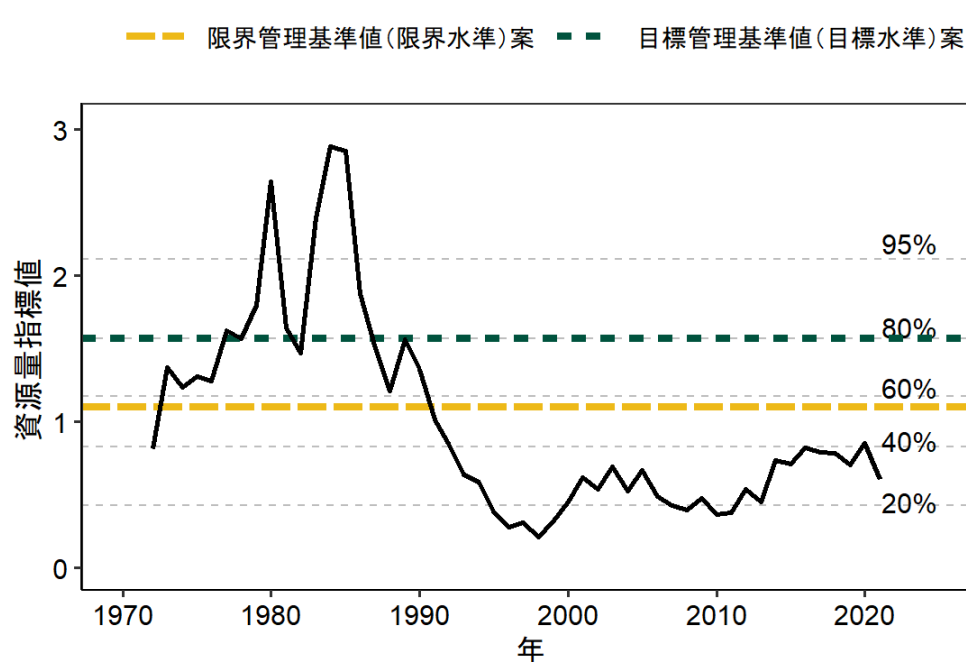


図7 資源量水準および管理基準値案

標準化CPUEを資源量指標値（黒線）とし、資源量水準に基づいて80%水準を目標管理基準値（緑線）、56%水準を限界管理基準値（黄線）として提案する。

2021年の資源量指標値（0.60）は28%水準に相当するため、限界管理基準値案を下回る。

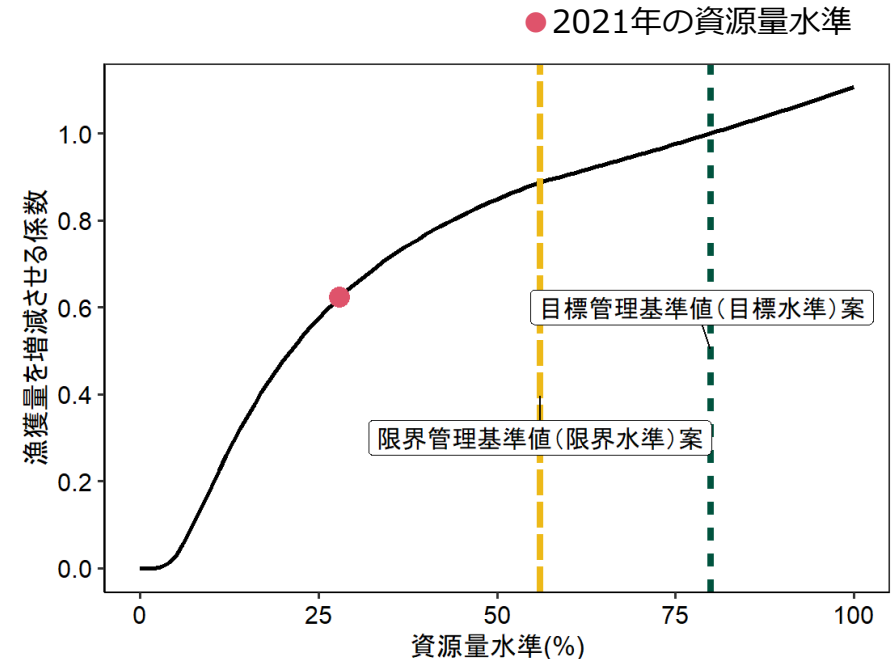


図8 漁獲管理規則案

資源量水準に応じて漁獲量を増減させる係数（黒線）を決める漁獲管理規則を提案する。資源量水準が目標管理基準値案（緑線）を上回った場合は漁獲量を増やし、下回った場合は削減する。

現状（2021年）の資源量水準（28%）における漁獲量を増減させる係数（赤点）は0.623である。

本資料における、管理基準値、禁漁水準および漁獲管理規則については、資源管理方針に関する検討会（ステークホルダー会合）における検討材料として、研究機関会議において暫定的に提案されたものである。これらについては、ステークホルダー会合を経て最終化される。

サメガレイ (太平洋北部) ④

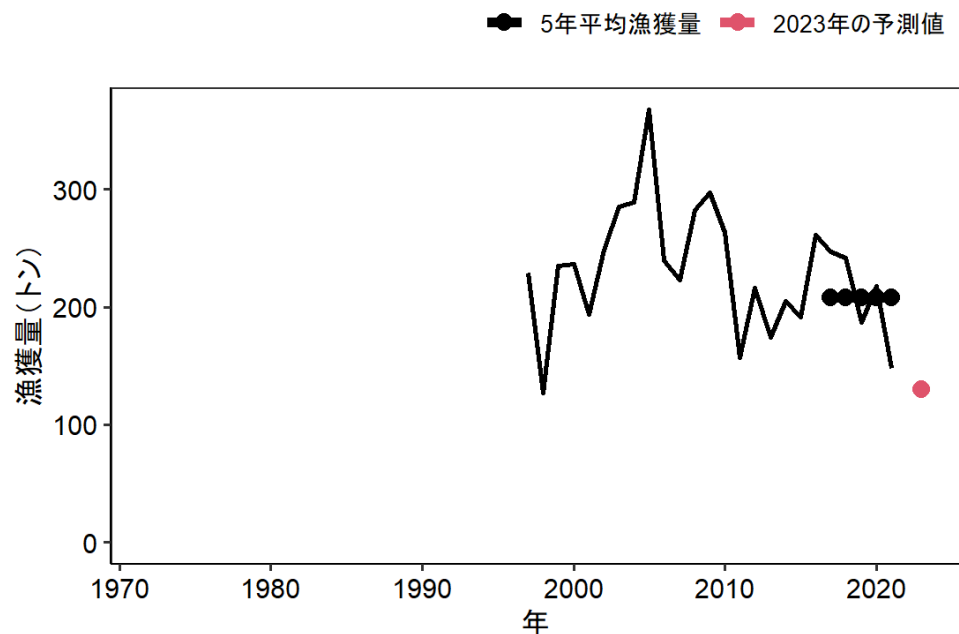


図9 漁獲量の推移と2023年の予測漁獲量

直近5年（2017～2021年）の平均漁獲量（黒丸、208トン）に2021年の資源量水準から求めた漁獲量を増減させる係数（0.623）を乗じて算出される2023年の予測漁獲量は、130トン（赤丸）となる。図中の漁獲量は全漁業種の漁獲量情報が得られている1997年以降のみを示している。

	資源量水準	漁獲量を増減させる係数	資源量指標値 (kg/網)
目標管理基準値 (目標水準) 案	80%	1.000	1.571
限界管理基準値 (限界水準) 案	56%	0.887	1.102
現状の値 (2021年)	28%	0.623	0.604

資源量指標値の推移から求めた資源量水準と目標管理基準値案および限界管理基準値案の位置関係に基づき漁獲量を増減させる。2021年の資源量水準は28%であることから、2023年の予測漁獲量は130トンと算出される。

本資料における、管理基準値、禁漁水準および漁獲管理規則については、資源管理方針に関する検討会（ステークホルダー会合）における検討材料として、研究機関会議において暫定的に提案されたものである。これらについては、ステークホルダー会合を経て最終化される。